

神戸市立工業高等専門学校 学校報“COLLEGE”12月号 p12に『国際交流体験記』として掲載

国際交流体験記(1)

シアトル高校生との交流会で講師役を務めて

電気工学科3年 山下 夕貴

今年の夏休みに姉妹都市シアトルから来校した高校生との交流会がありました。交流会のスケジュールの中で、本校の研究内容を紹介・体験してもらおうというものがあり、私はその講師役を務めさせていただきました。昨年の交流会では、私も一緒に体験する側で、英語の説明を聞き取ることさえ精一杯でした。そんな自分に“交流会を運営する側”が務まるだろうかという不安がありました。しかし、専門教科を英語で学ぶなどして、積極的に英語に触れてきた経験を活かすチャンスだと思い挑戦してみることにしました。

電気工学科 ICT 応用教育工学研究室では、Apple 社ライセンスの iPhoneOS プログラム統合開発環境を用いて英語学習アプリの開発を行っているのですが、交流会ではそのプラットフォームを使って簡単なゲームアプリを作成してもらい、プログラムの楽しさを実感して頂きました。いざ講師役になってみると、相手の知らないことを、英語で説明するのは想像以上に難しいことがわかりました。説明に用いるスライドの使い方や、スライドをめくるタイミングなどについて先輩方の指導を受けた後、何度も練習を繰り返して、表現をよりわかりやすくするなどの工夫を加えていきました。当日も先輩方がしっかりとサポートしてくれたおかげで、円滑に進めることができ、来日生徒や引率の先生方からも“Excellent”とお褒めの言葉を頂きました。自分の英語がネイティブの人にも伝わったことが実感できて、自信ができました。今回は運営側に立つことにより、自分も交流会をつくっているんだという意識が芽生えて、積極的になることができました。先生がすべて運営、企画するのではなく、学生も一緒になって考えることが大事なのだと思います。

